

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171800905		
法人名	株式会社寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム草加		
所在地	埼玉県草加市長栄2-20-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のご家庭にいた頃と同じように家事をスタッフと一緒にを行い、生活感を忘れないよう努めています。
 現在コロナ禍であっても、感染状況を見定めながら短時間でも外に出て気分転換ができるよう努めています。
 また、レクリエーションで利用者様に創作物ができた時の楽しみやゲーム等で楽しみながら体を動かし健康維持に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「個人の意見を尊重し、心豊かで快適な生活環境、地域に根差したホーム作り」を理念に掲げ、「笑って過ごそう元気よく」を目標にしている。コロナ禍の影響で利用者の外出やボランティアの来訪が制限されていることについて、早期の再開を願っている。利用者は踊りや三味線、歌等のボランティアの演技や演奏をとっても楽しんでた。事業所の前は犬の散歩をする近隣の人々のたまり場になっている。利用者は少し離れた場所からその様子を楽しそうに見ている。「利用者は人や動物が好きで外部から人が来られると表情が変わる」と管理者は語る。これからは積極的に面会も再開し、外出やボランティアの受け入れを増やして、利用者に変化のある豊かな生活を送ることができるようにと計画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を朝礼申し送り時に一同で唱和を意識付けている。1日の目標「笑って過ごそう元氣よく」地域に根差したホーム作りを念頭に実践に繋げている。	毎日笑って元氣に過ごすことができるように、利用者の話をよく聞き、声をかけ合いながら介護をしている。利用者から困りごとを聞いた時にはフロア会議で話し合い、本人の意思を尊重した解決策を考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事への参加、散歩はコロナ禍により施設周りや屋上での歩行練習程度になっており、生活に飽きができないように行事の中で出来る事の支援を行っている。	コロナ禍以前は自治会の消防訓練や芋煮会に参加して多くの近隣の人々と交流していた。新舞踊や音読のボランティア、中学生の福祉体験を受け入れていたが、様子を見てまた再開する方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により外出を控え近隣の方々との触れ合いがなくなり、行事のパンフレット配布、手紙や電話などで伝えていく取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の近況報告を行い、業務や運営に関する意見や要望などの意見交換を行っている。業務カンファにて内容伝達をし、改善できるところは見直しをしている。	2か月に一度、地域包括支援センター職員、利用者、家族の出席を得て開催している。地域の情報として家族が認知症で悩んでいる人、入居の相談をしたい人が来られることもあり適切に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居者状況などの相談や助言をいただき連携を図りながら施設運営に取り組んでいる。	市の窓口に出向く他、勉強会や研修会開催のメールや電話をもらっている。行政との連携を深めて事業所の運営に活かし、利用者がその人らしく生きられるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー、身体拘束廃止委員会を設け事例を用い職員伝達講習をし、不適切なケアをしていないか振り返り話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間10回以上、身体拘束についての研修を行っている。何が拘束にあたるのかを周知し、全職員にアンケートを実施している。接遇や言葉遣いに配慮したケアに努め、立ち上がりや移動が困難な場合は、見守りながら一緒に行動するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上委員会を通し「入居者様への尊敬」の気持ちを持ち接し、言葉一つからも虐待につながる事を伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括含め推進会議の中で情報提供があり、成年後見制度を学ぶ機会がある現在では必要とされる入居該当者なく活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時点で施設内見学やパンフレット送付などで施設状況の説明、同意を得ている。また、疑問点などがあればその都度納得のいくまでの話し合いが出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍によりご家族との面会は短時間となり、玄関先、窓越しであったりしています。電話や手紙などで状況説明し、ご家族の要望や意見を聞くようにしている。	新入居の利用者には事業所に慣れてもらうことが一番で、家族の心配ごとを聞き、要望には前向きに検討している。寝酒が習慣だった人には禁止がストレスにならないように、お酒をココアに変えて就寝してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務カンファ・フロアカンファでは各委員会防災、環境衛生、接遇、備品の担当職員先頭に全職員との意見交換がされ業務に反映させている。	業務カンファレンスでは組織全体の方向性が話し合わせ、フロアカンファレンスでは介護に関して利用者一人ひとりへの対応について話し合われている。利用者を中心とした風通しの良い職場を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が認めた資格や研修については出勤扱いの上、費用は会社負担で受講可能としている。年間120日の休日、融通性を持って職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の施設や現場の事例に基づいた研修を行い、介護技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で市内のGHの集いも中止となりリモートは行っていない。必要時電話やファックスなどで情報の共有をしている。施設内研修レクリエーション中心にサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の現地調査でご家族様からの情報収集において、ご本人が困っている事、何が出来て出来ないかをご家族様と一緒に考えサービス提供、安心して入居頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるご家族様の困っている事など要望書に自由に記入して頂いて内容で相談対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望を見極め、必要と思われる他の介護サービス利用も説明し紹介事例もある。 ご家族の安心につながっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来るところを見つけ、掃除や洗濯物を干す、たたむ、レクリエーション等、他入居者様と楽しめるよう心掛け、家族の一員として関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で状況をお知らせし、又は面会時などに入居者の様子をご家族様にお伝えし共有したケアを話し合い関係構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの終息がないまま現状に至り面会が出来ていない面があった。 今年度に入り、面会を5分～10分程度として玄関先などで対応、また携帯やリモートを使つての関係づくりの支援に努めている。	以前は友人の面会も多く、家族と馴染みの美容院や墓参りへ行く人もいた。職員同行で買い物やコーヒーショップへも行ってた。コロナ終息に向けて以前のように外出の機会を増やす方向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同時の関係把握、日常会話やレクリエーション時には職員が加わり良い関係が出来るよう支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の民生委員を通じて挨拶程度になっているがご家族様よりTEL相談ある時は傾聴支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケート調査や普段の会話の中や表情や仕草等で、思いや意向をくみ取ったりご家族に協力依頼している。	職員は利用者の来歴を周知し、さらに10項目のアンケートで好きなもの、食べたいものを聞いている。レクリエーションでは本人が興味を示すことをやってもらえるように個別に声掛けをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や関連する事業所、病院などから情報提供を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、チェック表を活用し職員一同で利用者の心身状態を把握しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様の要望に伴い、ケアカンファレンス開催し、その方のニーズに沿った介護計画を作成し必要時には随時見直しを行っている。	見直しは基本的には短期3~6か月、長期1年としている。カンファレンスやモニタリングにて職員からの利用者情報を共有し、本人と家族の要望も入れて計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月定期的にケアカンファレンスを行い、職員間での情報共有をし、問題についてはその都度見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて行政や地域包括に相談、可能な範囲でご家族様対応、入居者様が安心して暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の催事に参加、推進会議等で自治体の活動、情報収集し話の場を多くしている。日々の生活に出来ること楽しめる題材を作る支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期的な往診が3週に一度あり、週一回の訪問歯科、衛生士、訪問看護師の身体チェックがあり又必要に応じて他医療への支援をしている。	内科は、訪問診療の受診ではなく、家族同行でかかりつけ医へ行く人もいる。外部受診は基本家族同行だが職員が同行することもある。緊急の場合は24時間往診医への連絡が可能で指示を仰ぐことにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携は図れている。記録や排泄チェック表などを基に適切なアドバイスを頂き支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣のHP関係、相談員の情報収集が取れている(営業などで)。入・退院時にはご家族様、主治医との病状説明の中で同意を得て対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の重度化した場合について、入居契約時説明サインを頂いている。訪問看護師を交え重度化してきた場合には、施設で出来る事、可能な限り看取り支援を行っている。職員共有したケアに臨んでいる。	家族が事業所での見取りを望んだ場合には、医師からの説明を受けて、家族と今後の相談をしている。終末期には家族も居室と一緒に過ごしてもらっている。職員は経験者が多く、自分の家族のようにできるだけケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、包帯固定の仕方など地域の防災訓練に参加し実践できるように取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施(昼夜想定)避難誘導、応急処置の工夫、訓練消火器の使用の確認など職員に周知、災害対策の取り組みをしている。	訓練の1回は消防署も来て指導を受けている。火災、地震、水害、竜巻とテーマを決めて実施している。マニュアルや連絡網を作り、近隣住民の応援も頼んでいる。一週間分の水、食品、衛生用品の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルや個人情報や戸棚に保管、一人一人の生活環境や生い立ちも違い、言葉かけ、声のトーンに気を付けて対応に心掛けている。「不適切ケアの防止」に取り組んでいる。	接遇の研修では、事例をあげてアンケートを取り、職員同士がお互いの考えを知っている。トイレへの声掛けは「そろそろどうですか」と小声で誘い、入浴は同性介助に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思いを言いやすい雰囲気づくりのため、相手の話を傾聴、気持ちを一緒にしていくことで自己決定できる工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者本位にならないようにし、一人一人のその日の希望に添いながらゆったりと時間を過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が選べるよう一緒に準備したり髪の毛を整えたり身だしなみができる声かけ、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月担当職員による行事があり嗜好調査アンケートによる昼食会またはおやつ作りを一緒にできる機会を作っている。	利用者は盛り付けやテーブル拭き、食器拭きを手伝っている。行事食としておせち料理、ちらし寿司などを楽しんでいる。コロナ禍以前は外食にも出かけたが、現在は寿司やハンバーガーを取り寄せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病食の方、一般食の方という所で、それぞれにあった量・栄養・水分摂取チェック、粥食・きざみ食と食べやすいよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夕食後義歯消毒や口腔内の清潔に努め訪問歯科医、衛生士の訪問で相談・指導を受け磨き残しがないようケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを読み取り表の情や行動を見ながら声かけ誘導をして自然な排尿・排便ができるよう支援している。	便秘症の人には薬だけでなく歩行、運動、食事(さつまいも、ヨーグルト)などで改善を図っている。病院からオムツ使用で退院した人には体調を見ながらできるだけトイレ排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の行動、排泄パターンから原因を探り、体操やおやつなどで薬に頼らない排泄を心掛けている。また、頑固な便秘には提携医より緩下剤が処方して頂き服用、訪問看護師により適切な処置がされている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴、季節のゆず湯・菖蒲・温泉のもとを使用できリラックスしていただく。体調が優れない時は清拭、手浴、足浴で対応、清潔保持に努めている。	入浴嫌いの人には「入浴」という言葉は使わず、無理強いせずに「温まりましょう」と声掛けをしている。自分専用の低刺激のシャンプーや石鹸を使用する人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズム状況をみながら休息への声かけ、季節に合わせ調整、加湿器使用で安眠できる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の状態を往診医に報告、処方薬について薬剤師より指示を受け、処方箋ファイルにて薬の用法など全職員が理解、支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事ごとの作品作り、おやつ作りなどの参加で楽しめている。 また洗濯物を干し、取り込み、たたむなど出来る事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策により遠出は出来ない為、天気の良い日は近くの公園を周遊したり屋上利用で気分転換を味わって頂いている。ご家族との面会も徐々にであるが電話連絡の上、時間合わせをして面会して頂いている。	以前は車いす利用の人も一緒に車で初詣やお花見、近くの川べりの散歩へ行っていた。現在は長く歩ける人が少なくなっており、事業所をひと回りしたり、屋上での外気浴を楽しんでいる。家族と月1回の受診や墓参りに出かける人もいます。	コロナ禍の現在は外出が制限されているが、事業所ではコロナの終息に向けて情報を収集している。以前のように外出を再開して利用者の楽しみを増やして喜んでもらえることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物に行けておらず、コープ等の利用で一緒に選び、買い物できる楽しみを共有している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様とご家族様との携帯電話を定期的に使用されている。 また年賀状やお手紙を頂いたり読み上げる事で返事を書く事が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月行事を取り入れ壁などの装飾品作成の取り組み、季節感を味わう工夫をしている。 フロア・居室の温度・湿度調整をしている。	リビングは1、2時間おきに換気をし、居室は利用者がいないときは窓を開けている。季節の飾り物作りは作成が得意な利用者も手伝っている。フロア内の掃除は手すり拭きやモップかけを手伝ってくれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファやテーブルの位置を工夫し、個々のペースに合わせている。 おやつ・昼食後の憩いの場が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたなじみのある家具、仏壇を置くなどご自宅と同じ環境の中で生活ができるよう工夫している。 あくまでもご本人の希望を優先に努めている。	電動ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台、照明の備品の他に馴染みのある家具を持ち込んでもらっている。壁にはカレンダーや写真を飾り、できる限り以前の生活の感覚を継続できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の好みのものを飾り付け、居室やトイレがわかるポスター等を貼るなど、安全に自立した生活が行えるよう環境作りに心掛けています。		